

平成 27 年 9 月 1 日

浜田市議会議長 原 田 義 則 様

総務文教委員会委員長 佐々木 豊治



## 委員派遣報告書

下記のとおり派遣しましたので報告します。

### 記

1 期間 平成 27 年 7 月 13 日 (月) ~ 7 月 15 日 (水)

### 2 場所及び目的

(1) 岩手県紫波町

ア オガールプロジェクトについて

(2) 青森県弘前市




ア ひろさき恋活カレッジについて



イ 市民参加型まちづくり 1%システム支援事業について

ウ 弘前市駅前こども広場について

3 精算額 1人当たり 101,690 円

### 4 派遣委員名

佐々木 豊治  岡本 正友  岡野 克俊 

小川 稔宏  野藤 薫  上野 茂 

江角 敏和  原田 義則 

※ 森谷公昭 委員は、体調不良のため欠席

5 調査の概要 別紙報告書のとおり

平成27年 9月 1日

浜田市議会議長 原田 義則 様

総務文教委員会

## 総務文教委員会行政視察報告書

下記のとおり、視察を行いましたので、その結果を報告いたします。

### 記

1. 期 間 平成27年 7月13日(月)～7月15日(水)

#### 2. 視 察 先 と 調 査 項 目

(1) 岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前・オガール紫波(株) 取締役 中村重雄氏

##### ○オガールプロジェクトについて

(2) 青森県弘前市・市議会事務局次長補佐：野呂智子氏、主事：工藤美乃氏

##### ○ひろさき恋活カレッジについて

人口減少対策担当 秋田美穂氏、竹内瑛子氏

##### ○市民参加型まちづくり1%システム事業について

市民協働係係長 對馬真理子氏

##### ○弘前駅前地区再開発ビルの再生の取り組み

(一般テナントの出店と分庁舎の設置 名称：ヒロロ)

3. 参 加 者 9 名 (総務文教委員会委員7名、議長、議会事務局1名)

- ①佐々木 豊治 委員長
- ②岡本正友 副委員長
- ③岡野 克俊 委員
- ④小川 稔宏 委員
- ⑤野藤 薫 委員
- ⑥上野 茂 委員
- ⑦江角 敏和 委員
- ⑧原田 義則 議長
- ⑨議会事務局 篠原 修議事係長

## ○オガールプロジェクトについて

### 【岩手県 紫波町】

#### 1. 町の概要

紫波町は岩手県のほぼ中央部にあり、盛岡市と花巻市の間に位置し、昭和30年に1町8カ村が合併し誕生しました。

町の面積は239平方キロで、東部・中央部・西部に分けられ、国道4号線など6本の幹線、東北道のインターチェンジやJRの3つの駅が有るなど、交通の便にも恵まれています。

中央部は全国有数の生産量を誇るもち米に蕎麦や麦、東部はリンゴやブドウ、西部は西洋梨などの栽培が盛んです。

江戸時代、近江商人の村井権兵衛が大阪より「池田流」の杜氏を招き、この地で酒造りを始めた。その高度な技術により、後世の南部杜氏の源流となった。

人口は、33,686人で横ばい、世帯数は11,638世帯で微増です。(平成27年5月)です。

#### 2. 議会の概要

|         |   |
|---------|---|
| 議員定数    | 条例定数：20人  |
| 議員任期    | ～平成27年 7月   |
| 正副議長    | 議長：武田 平八<br>副議長：小田島 英二                            |
| 議会運営委員会 | 8人（委員の任期は議員の任期）                                   |
| 常任委員会   | 総務委員会6人・福祉文教委員会6人、産業建設委員会7人、予算決算委員会19人、広報広聴委員会10人 |
| 特別委員会   | 議会のあり方に関する検討委員会7人                                 |

#### 3. 視察内容

7月14日9：30～11：30

（説明、案内：オガール紫波株式会社 取締役 中村 重雄 氏）

（対応、挨拶：紫波町議会 武田 平八議長）

オガールプラザ2階のスタジオ（会議室）にて冒頭、武田平八議長より挨拶を受ける。その後、オガール紫波 取締役 中村氏から視察内容の説明を受ける。

10時半より区域内を説明を受けながら視察して回る。

## ① オガールプロジェクト（紫波中央駅前都市整備事業）の概要

国鉄からJR（東日本）になって初めての、地元要望駅として、平成10年3月に紫波中央駅が開業した。この駅は紫波町として3番目の駅である。紫波中央駅を作るにあたり日詰西地区土地利用基本計画を策定、駅の西側10.7haを土地開発公社が28.5億円で先行取得。

当初計画では町の活性化の為、143億円の開発計画が作られたが、実質公債費率の上昇などで、国の補助金を利用しても実現性が危惧されて、事実上計画の凍結となる。（その後、約10年間塩漬け）

平成18年3月、首長のリーダーシップにより公民連携元年を宣言し、東洋大学の協力を受け、まちづくり座談会、意見交換会など（19回、440人参加）を開催、平成21年3月に紫波町公民連携基本計画を策定し、この計画に基づき平成21年度から始まった紫波中央駅前都市整備事業が「オガールプロジェクト」である。

名前の由来は、方言のおがる＝成長する+フランス語のガール＝駅、の造語から来ている。

## ②各施設の役割について

### 【オガール紫波㈱】

PPP手法による町づくり会社で全体のマネージメントを担う。

町出身者で地元でUターンして来た岡崎正信氏（旧建設省出身、駅前開発等を担当してきた）を雇用し、民間のまちづくり会社、オガール紫波㈱を設立、プロジェクトが進む事になる。

当初143億円の計画を見直し、逆アプローチの不動産開発の手法で『無駄な物を作らない』事により45億円で圧縮、また建設にかかる費用を補助金に頼らず、銀行からの融資を受ける事により、コスト管理の意識が生まれた。

### 【紫波グリーンエネルギー㈱】

区域内のエネルギーを供給するため、チップボイラーを使った電気、暖房のエネルギーステーションを設立。

### 【オガールプラザ㈱】

官民複合施設のオガールプラザの管理運営（SPC）を担う。

施設の維持管理費も工夫し、年間1500万円の産直市、紫波マルシェ等のテナントからの収入を、公共施設の維持管理費に充当。

### 【オガールベース<sup>株</sup>】民間施設

コストカットだけでは無い攻めの経営を目指し設立。スポーツ合宿等の誘致を図る。

平成25年着工、平成26年7月オープン、ビジネスホテル、バレーボール専用体育館（床材に国際規格のタラフレックス使用）、スポーツアカデミー、その他飲食・雑貨などテナントが入居。

### 【オガールタウン】行政、民間

盛岡、花巻への通勤圏の利便性を活かし、さらなる30代、40代の転入増を図る。

平成25年秋から販売開始、土地は紫波町が分譲し、建物は個人が建築だが、オガールタウン景観協定を守りる事により、豊かな住環境が維持される。

紫波型エコハウス基準（町産材の活用や町内16指定事業者が建設）などがある。区画約70坪、14万円/坪

### 【紫波シティホール<sup>株</sup>】民間PFI（15年契約）

PFI手法により、役場庁舎を建替えるため設立、平成27年5月完成

### 【質疑応答】

Q：年間利用80万人という事だが、町内から？町外から？

A：利用する施設により違うようだ。マルシェでは町内が多いようだ。

Q：オガールプラザ<sup>株</sup>の出資者の内訳は、また割合は？

A：当初、町が100%、その後、増資があり町は39%に、その他は金融機関や県内、町内の企業や個人だ。

Q：計画を作るにあたり、どのような会議方法だったのか？

A：デザイン会議を開催するにあたり、東洋大学にお手伝いをお願いした。

住民は当初駅の西側の開発だと考えていた。

役場まで移転するとは、町民は想定外だったと思う。

Q：駅の東側は寂れないのか？東西の連携は？

A：既存の商店街へのテコ入れはやってきたが、駅が欲しいとの要望で、開発計画を作らざるを得なかった。

駅が出来れば何とかなると思っていたのではと思う。

Q：駅舎の造りが、人の行き来がしやすい造りで無いように見えるが。

A：在来線と新幹線があり、駅を造るのにJR側から5億円と言われた。もし通路等、要望をしたら、10億円という数字が出たかもしれない。

Q：各会社の利益や配当はどうか？

A：今の所、各社はトントンだ、10年経つと金融機関の返済が終わる、想定外の事態が無い限り、利益が出る予定で出資者に配当が出来ると思う。

Q：町との契約終了後はどのようなになるのか？

A：定期借地後は、取り壊してお返しする事に契約上なっている

### 【まとめ】

NHKの『クローズアップ現代』でも取り上げられた岩手県紫波町のオガールプロジェクトを今回視察する事が出来た。

当初は対応が出来ないとの事であったが、他の視察と一緒にならという事で受け入れてもらった。

7月14日の朝9時、梅雨も明けたかと思われる真夏日の紫波中央駅に降り立った。

木造の駅舎を出ると、目の前にはなだらかに広がるオガールの各施設、自然景観との調和が素晴らしい。

建物は、防火上の制約で鉄筋部分を除けば、すべて県内産の木造の構造である。

各建物群は雪よけのひさしが設置してあり、利用しやすそうである。

コストを下げるために3階を2階に変更して内装も簡単に施工してある。

浜田市においても、国の地方創生とベクトルを併せ、定住の促進や地域活性化に取り組んでいるが、PPP手法を使った計画策定や、そこに見合った施設、コスト意識、建設資金の調達方法、PFIの活用など、大変参考になった。

当日忙しい中、プロジェクトの説明や施設の案内をして頂いた紫波町議会武田議長やオガール紫波㈱の中村様に、厚く御礼を申し上げます。



オガールプラザ



紫波マルシェ



国際規格の床材使用のバレーボールコート



オガール広場にて

## ○ひろさき恋活カレッジについて（青森県弘前市）

### 【弘前市の概要】

明治4年7月、廃藩置県によって「弘前県」となり、同年9月に弘前県は青森県と改称され、県庁も弘前から青森へと移った。明治22年4月に市町村制が実施されたとき、全国30市とともに市制を施行し、本県の中核的役割を果たす。

明治27年には弘前・青森間に鉄道が開通し、31年に第八師団司令部が設置され、軍都としての歩みを続け、さらに大正10年には、現在の弘前大学の母体となる、官立弘前高等学校が開校し、学問的文化的な薫りは、地方文化の水準を高める基礎となった。

戦後、幸いにも戦災をまぬがれて終戦を迎えた弘前市は、お城とさくらに代表される数々の文化遺産と、恵まれた自然環境を土台に文化都市として発展し、現在では弘前大学をはじめ、大学5校と短期大学1校、高等学校10校を有する、東北屈指の学園都市として成長を遂げている。

また、昭和30年、32年には、周辺12町村と合併し、りんごと米の田園都市、全国一のりんご生産圏としての地歩を築いた。

### 「子どもたちの笑顔あふれる弘前」を目指して

人口の減少や少子高齢化の進展、日常生活圏の拡大、行政ニーズの多様化・高度化、厳しい財政状況など、地方を取り巻く環境が大きく変化している。

これらの課題に的確に対応し住みよい地域社会を実現するため、平成18年2月27日、弘前市、岩木町、相馬村の3市町村が合併し、新しいまち「弘前」が誕生した。

現在、市の総合計画である「弘前市経営計画」に基づき、「子どもたちの笑顔あふれる弘前づくり」に取り組んでいる。

## ○弘前市婚活事業 ひろさき恋活カレッジの取り組み

### 1・弘前市経営計画

笑顔ひろさき重点プロジェクト(人口減少対策)

産み・育てたいまち「ひろさき」 ①出会い・結婚を応援 ②あんしん子育てを応援

◆20年後の人口 18万人→14万人

◆急激な高齢化と合わせて消費活動の減退、税収の減少等、社会に影響

●当市の最重要課題 ●人口減少による社会的影響の緩和



## 2・弘前市民の結婚に対する意識①

結婚した方がいいと考えている人は半数以上。

しかしながら、個人の自由という考え方が大前提。全国と大差がない。

## 3・弘前市民の結婚に対する意識②

男性と女性には意見の違いが。弘前の男性はある程度の年齢までには結婚したいが、弘前の女性は理想の男性が現れないと一生独身・・・？

## 4・弘前市民の結婚に対する意識③

結婚を願っても、経済面に不安があることが明らか

## 5・弘前市民の結婚に対する意識④

○自分には自信がない

○また出会い機会がない、解らないという男女が一定数いることが明らか。

## 6・ひろさき恋活カレッジ

### 平成26年度

- ・内面の魅力向上(コミュニケーション能力の向上)
- ・外見の魅力向上(第一印象、ファッション等)
- ・実践(参加者でパーティー)

☆弘前市に居住若しくは通勤者 20代 30代独身男女(学生不可)

08月～12月(月1回計5回) 300円

### 平成27年度

- ・内面の魅力向上(コミュニケーション能力の向上)
- ・外見の魅力向上(第一印象、ファッション等)
- ・実践(参加者でパーティー)
- ・意識啓発(ライフプランニング)

☆弘前市に居住若しくは通勤者 20代 30代独身男女(学生不可)

前期 08月～11月(隔週全6回) 300円

後期 12月～02月(隔週全6回) 300円

## 7・ひろさき恋活カレッジの開催の反省と調査結果

○ひろさき恋活カレッジを開催してみて

- ・男性の魅力アップが必要 (全国共通?)
- ・受講者はグループワークを通し、自主性が身についた
- ・コミュニケーション能力の向上は大事  
⇒話せるようになったことが自信に

⇒外見の魅力向上にも

#### ○セミナー実施前後のアンケート調査結果

- ・受講前に比べて心境の変化があった ⇒83%
- ・自分に自信がないと感じる人は減少
- ・コミュニケーション能力の向上を実感する声が多数

#### ○参加者の声

これから少しずつでも成長していければと思っている

- ・服装に関しても気を付けるようになった。
- ・相手の話を聞く意識を持てるようになった
- ・職場の人と明るく会話できるようになった
- ・恋においてというより生活や仕事でも、相手を気遣う事が出来てい  
そうで、全然できていないと実感した。

#### ○視察の感想

弘前市の人口減少対策のうち少子化対策の婚活事業は、昨年より始まったばかりの事業である。女性職員で構成された行動力のある取り組みをしており、今後の展開に注目をしたいと思っている。

さて、この度の視察から、全国の若者のおおよその動向には共通性があり、コミュニケーション能力やライフプランニング意識、全体主義のなかの個人主義など、基本的な人格形成をはかるうえでの教育を在り方について、根本的な取り組みを国が図るべきであると感じさせられた。

また、晩婚化や未婚化の改善をはかるためには、弘前市も浜田市も取り組んでいる出会いの創出や自分磨きは、大変重要である。そして、行政や関係諸団体が行う出会いイベントのほか、企業や若者が集まりやすいサークル活動などを間断なく開催させることによって、仕組みができるのではと考える。

そのために支援をしていく事は必要であるが、自立できる若者はともかくとして、手助けが必要な方への情報提供と参加案内は積極的に行うべきであると思う。

お見合いや紹介を行って頂ける仲人さんやお節介さんの増員をはかることが、求められており、その方々のネットワークから出される多くの情報から婚活を推進することが出来る。協力者の掘り起しについて、行政の働きかけと推薦および紹介が不可欠である。

## ○市民参加型まちづくり1%システム事業について

「弘前市 市民参加型まちづくり1%システム」とは、個人市民税の1パーセント相当額を財源に、市民自らが実践するまちづくり、地域づくり活動に係る経費の一部を支援する、公募型の補助金制度。

町内会やNPO、ボランティア団体をはじめとする市民活動団体が、自らの地域を考え、自ら実践することにより、地域課題の解決や地域の活性化につながる活動を支援し、「市民力」による魅力あるまちづくりの推進を図るもの。

(市民のアイデアや経験を活かした事業)

### 応募できる団体

次の要件をすべて満たしている団体

- ① 構成員が5人以上であること。
- ② 主に市内を活動拠点としていること。
- ③ 組織の運営に関する規則（規約、会則等）を有していること。
- ④ 継続かつ計画的に事業を行うことが可能であること。

※ 既存の団体のほか、新たに組織する団体も対象とします。

### 対象となる事業

地域の課題解決や活性化を目的に実施する公益性のある事業で、次の要件をすべて満たしている事業。

- (1) 原則として市内で実施される事業。
- (2) 継続可能な事業。
- (3) 住民または構成員の労力提供等がある事業。
- (4) 年度内に完了する事業。

※ 次のいずれかに該当する事業は、対象外とします。

- (1) 営利を目的とする事業。
- (2) 特定の個人や団体が利益を受ける事業。
- (3) 政治、宗教または選挙活動を目的とする事業。
- (4) 市の他の補助金の交付を受け、または受ける見込みである事業。
- (5) 国、県およびその他の機関から補助金を受け、または受ける見込みである事業。

- (6) 市との共催による事業。
- (7) 法令、条例等に違反する事業。
- (8) その他公序良俗に反する事業。

## 補助金の額と募集回数

補助金の額は、次のいずれか少ない額とし、原則 50 万円を上限。（千円未満の端数切捨）

- (1) 補助対象経費の 90 パーセント以内
- (2) 事業の支出総額から収入（参加費、協賛金等）を除いた額
- (3) 平成 27 年度事業の募集は、3 回を予定。

## ○視察の感想

市長が選挙マニフェストに市民参加型 1 %システムの導入を掲げられたのが制度の始まりで、市民主権システムを実現し、協働によるまちづくり & 地域活動・コミュニティ活動を進められていることが理解できた。

個人市民税 1 パーセント相当額を財源に、市民自らが実践するまちづくり・地域づくり活動に係る経費の一部を支援する、公募型の補助金制度。町内会や NPO、ボランティア団体をはじめとする地縁組織や志縁組織問わず、市民活動団体が、自らの地域を考え、自ら実践することにより、地域課題の解決や地域の活性化につながる活動を支援し、「市民力」市民のアイデアや経験を生かしたによる魅力あるまちづくりの推進をはかるもので、島根県内公民館では実証！「地域力」醸成プログラム、公民館が培ってきたノウハウをプレゼンテーションによりモデル公民館に選定してもらい、具体的活動を通して実証し世論換気をしている。

まちづくり総合交付金の活用にも参考になるとおもう。財政に多くを依存できない中で閉塞感を打破し地域の元気を取り戻すためには、「市民力」を高めていく必要がある。

行政主導のまちづくりの限界をいち早く気づき市民と行政の情報共有・対話が促進され、市民主体のまちづくりが進められていることが理解でき浜田市として大いに見習うべきものがあると考えた。

## ○弘前市駅前こどもの広場（ヒロロ スクエア）

7月15日午前9時半より1時間視察を行った。

ヒロロ スクエアは弘前市の駅前に有る大町通りに面した複合商業施設の3階、4階にある。

以前は地元主導の民間のテナントが入る商業施設で有ったが、売り上げの減少により閉鎖、駅前の一等地の立地の為、再開を願う地域の要望により、平成25年に3階を子育て支援施設の拠点として、4階を弘前市民文化交流館として借上げてオープンした。

各種育児講座、育児相談。子育て支援情報の提供、乳幼児の一時預かりなどを実施しているほか、親子カフェを併設しており、食事も出来て、各種行政サービスと、子育てのワンストップ施設として賑わっている。

昨年の利用者は3万人、前年より1割増加している。

### 【感想、まとめ】

平日の開館直後の為、訪れる人はまばらであったが、施設のスタッフは多く（こども広場に6名の保育士）利用は多いと思った。

福祉分野では有るが、中心市街地のにぎわいの創出とまちづくり、子育て世代の定住促進や安全・安心につながる複合設で、行政の住民サービスの効率化にもつながっていると感じた。



ヒロロ、スクエア入口



図書館分館『こども絵本の森』